

神戸地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和元年7月5日（金）19：00～20：15
- 2 場所 神戸地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 19名
市出席者 4名（深澤市長、吉田副教育長、谷村農林水産部長、
安本市民生活部長）



4 テーマ 地域の活性化について

5 概要

（地元あいさつ）

当地区は人口減少、高齢者の増加など、厳しい現状ではあるが、地区の子どもや高齢者は元気であり、居住空間としては素晴らしい地区だと思っている。

地区の問題に対し、各集落や個人で考えるには限界がある。市と一緒に協調してやっていきたい。より充実した生活を送るために、税金を効率的に使うことが重要だと考えている。

（市長あいさつ）

人口減少、少子高齢化は全国で厳しい状況が続いている。これを乗り越えて明るい未来を切り開いていくことが、今の私たちに課せられた責務だと考えている。

神戸地区の取組の説明

<テーマの背景>

当地区では神戸もも祭りや冬の祭典など、さまざまなイベントを開催し、地域活性化に取り組んでいる。そんな中、いよいよ神戸小学校が令和2年度に江山学園へ統合されることになり、地域では地域活性化に向けた小学校施設の後利用に期待が寄せられている。一方で、地区の子どもたちが遠距離通学となるが、バスの便が悪いので対応を求める声も出ている。

また、地区内に耕作放棄地が増え、まとまった土地が活用されずそのままとなっており、これらも活用してはとの声が上がっている。

<地域の取組>

毎年まちづくり協議会主催のもと、冬の祭典を開催しており、昨年は約100名の参加があった。公民館にイルミネーションを飾り付け、演奏会や抽選会を行い、交流を深めている。

また、当地区では、地区の将来を考えていくため毎年1回、「神戸を語る会」を開催し、各区長やまちづくり協議会役員等約40名が参加している。今年2月に開催した際に廃校後の利用方法について意見を求めたところ、具体的な内容ではないが、

- ・地域が活性化するような企業を誘致
- ・アトリエを作り若者が活動できる場を設ける
- ・老人ホームを作り、職員は地元で採用する
- ・水耕栽培工場を作る
- ・校舎を利用しさくら山にキャンプ場を作る

など様々な意見が出た。今年中にはまちづくり協議会内に「小学校廃校後利用協議会」を立ち上げ、さらに議論を深めていくことを考えている。

語る会では地区の自然を活用した取り組みについても検討しており、その中で耕作放棄地についての議論も行っている。

現在実施している地区の自然を活用した取り組みとしては、不定期に小学校の裏にあるさくら山に桜の苗木を植えている。年に一度下草刈りも実施し、管理をしている。

(地元)

神戸小学校は来年3月に廃校となる。廃校後の利活用について、市の考えはどうだろうか。

(市長)

まずは地元の意見を尊重させていただきたい。特にはないということであれば、市として利活用を検討していくことになると思う。

(副教育長)

平成30年に未利用財産の利活用についての方針を出している。方針の中で、学校や保育

園は地域の核となる建物であるため、地域の活性化に資する利活用を地域とともに協議することとしており、今はこの段階だと考えている。地域での利活用が困難だということであれば、民間での利活用を検討していく。ただし、民間が活用することとなった場合など、市が行政目的で使わなくなった建物については、市では修繕対応は行わない方針なので、そこも含めて検討する必要がある。

(地元)

地元が考える活用方法がベースになるということか。

(市長)

佐治町や青谷町でも学校を活用している例がある。建物の状況によっては検討を要する場合もあるが、できる限り地元の皆さんのアイデアを尊重したい。

(地元)

保護者の中では、校舎裏にあるさくら山を昔のようにスキー場として使えるような整備を考えてほしい、神戸で有名な桃や砂見太鼓のために活用していただきたいという意見があった。

(市長)

昔スキー場として活用されていたということは初めて聞いた。美和小学校にはない資源であり、地域間交流にもつながるため、大いに活用していただくのは良いことと思う。

校舎だけではなく、体育館やグラウンドの活用も検討課題になる。地域の皆さんのご意見をしっかり伺っていきたい。

(地元)

当地区は地区体育館がないので、小学校の体育館は残してもらいたい。

(市長)

地区体育館の機能も役割も持っていると思うので、一緒になって検討したい。

(副教育長)

学校のよい文化を残しながらお互いが交流していくことが大事だと思う。

教育委員会としては、地区体育館を増やす方針は難しいと考えているが、地区体育館がないという事情もあるので、考慮しながら進めたい。

校舎は昭和47年に建てられており、児童玄関のある校舎は昭和56年に建てられている。耐震工事は終わっているが、校舎の壁の剥離もある。体育館は昭和58年に建てられたもので新耐震基準であり、比較的新しい施設となっている。

(地元)

これまでは学校の体育館ということで電気代も発生しなかったが、地区体育館となると電気代等は地区負担となるのか。

美穂地区の体育会長とも話したが、一貫校になると、運動会についてはプログラムの量を考えると学校と地区が別々に実施しなければならないのではとの話があった。市民体育祭も江山地区で1チームということになるのではないかと考えている。これら体育関係のことが今後、3地区(神戸、大和、美穂)でどういう形でやっていくのか、話をする必要がある。教育委員会で音頭をとって検討し、来年度になるまでに方法を考えてもらいたい。

(市長)

今後、体育館をどういう扱いにするのか、ご意見を伺いながら位置づけについて考えていきたい。また、市全体のことも考えながら検討したい。運動会については地域での調整が必要だと思う。

(副教育長)

学校や地域の事情などもあると思うので、地区で話をさせていただき、また生涯学習・スポーツ課にご相談いただきたい。

(地元)

地区が体育館の費用を見る場合、どの程度見ないといけないか。跡地利用についての希望はいつまでに出せばいいのか。

(市長)

いつまでにといいことはないが、何年も放置しておくことは良くないので、地域とキャッチボールさせてもらいながら検討していきたい。

体育館については、照明代だけ負担してもらっている。

(司会)

今は閉校の記念事業の準備をしているところであり、これから新しい学園の準備もあるため、体育館の検討についてはある程度時間が必要である。また相談させてほしい。次に、遠距離通学となることについて話し合っていきたい。

(地元)

私の子も中学校に通っている。神戸に向かう路線バスは午前2便、午後5便の計7便である。部活動の終わる時間によっては長時間のバス待ちが発生し、先生がわざわざ送ってくれたこともあった。スクールバスがあればいいと思うが、なんとかできないだろうか。バスのダイヤも変更されるかもしれないが、生徒数が少ないのでバス事業者にも気の毒な気がしている。

(市長)

スクールバスは今の状況では難しい。路線バスのダイヤについては、バス事業者と話をしており、令和2年4月からダイヤを変更するのであれば、今年の10月にはどういう形がいいのか伝えてほしいと言われている。他の地区との兼ね合いもあり、調整が必要と思っている。逆に学校側の日程をバスの時間に合わせて調整していただく必要もあると思う。

(副教育長)

現在、学校では生活時程(時間割)について検討をしている。中学校の場合だと、部活が18時頃に終わるので18時20分頃にバスが着くようにしたらよいが、冬だと17時20分頃に部活が終わると聞いている。冬場の時間帯を考慮してもらえないか、学校と一緒にお願いしていこうと思っている。

(地元)

他の地区にはスクールバスはないのか。

(副教育長)

スクールバスの条例が廃止になっており、今はどの地区にもない。民間のバスを活用して通学してもらおうという方向性である。

(地元)

猪子横枕線が廃止になり、大和地区は補助金を活用して地域内でのタクシー運用をしている。そこと連携するというのも1つの方法だと思う。

(市長)

大和では公共交通空白地有償運送に取り組んでおり、地元の皆さんで運営してもらっている。従来は少し地元の方の負担が多い制度だったが、今年度から、負担を減らす制度に変えてスタートしている。

末恒の内海中では、NPO法人で有償運送に取り組んでいる事例もある。人口減少や少子高齢化が進んでいく中で、生活交通をいかに維持していくかが大きな課題である。神戸でも検討されるのであれば相談してほしい。余談だが、生活交通を守っていくことが大きな課題だということを、知事も言っておられた。県からも支援してもらえよう求めていきたいと思う。

(司会)

今はバスが空気だけを運んでいるような状態で、中学生は保護者が送迎されていると聞いている。バスのダイヤについて便宜を図ってもらうのであれば、地域としてももっとバスを利用していかないといけないと思っている。

(地元)

せっかくダイヤを調整してもらっても、乗る生徒がいないと意味がない。このことについて、保護者内でアンケートを取ることを検討している。帰る時間帯の層が、低学年、高学年、部活の有無で3、4段階くらいになるのではと考えており、その間でバスの待ち時間が1時間、2時間とではしないかと心配している。

以前に保護者から、冬にバスに乗り損ね、学校の中にも入れてもらえず、寒い中1時間くらい待っていたという生徒の話を聞いている。バスが来るまで校舎内で待てるようにするなど考慮してほしい。

(副教育長)

新しい学校になる上で、学校でバスを待てるような配慮も考えていきたい。校長に伝えておきたいと思う。

(地元)

耕作放棄地について、神戸の入口に広い土地があるが、荒れてしまっていてさみしい。所有者が6、7人おり、1人が全部引き受けて耕作されていたがやめてしまったため、現在は耕作放棄地となってしまっている。地域で何とかしないといけないが、お手上げ状態だと思っている。市でもできることがあれば考えていただきたい。

(市長)

先ほど該当の場所を見たが、面積も広く、圃場に復元するのは難しいかもしれない。河川敷に近いことで、土壌や水はけの状況や、果樹の場合はその土地に適した樹種のこともある。また、現地を確認させていただきたい。耕作放棄地は全国的な問題であり、一定の面積があれば有利な形で土地改良できる制度もある。

(農林水産部長)

鹿野町の河内では、地元が立ち上がり、耕作放棄地を活用した果樹の里づくりに取り組んでいる。地区だけでは難しいということもあり、鹿野のNPO法人であるいんしゅう鹿野まちづくり協議会に相談して動き出した。鳥取大学や大阪国際大学の学生がボランティアに年数回来て活動しているほか、有志と女性会、地区公民館、総合支所が関わり、4年前に果樹の里山協議会を立ち上げた。

果樹の里山計画というものを作り、国の支援を受けながら活動している。耕作放棄地であったところを有志で整備し、イチジクやクリ、柿、リンゴなど744本の果樹が植えられている。今は4年目を迎え、イチジクがなるようになり、女性会を中心にジャムを商品化し、パッケージ、チラシは大学の学生に作ってもらい、大学のキャンパス内などでも販売している。将来的には自立していくのが目標だが、軌道に乗せるのが難しい、でも頑張りたいと言われていた。

その他、鳥取市では3地区が共生の里事業をしている。東郷では山陰酸素グループと提携

して耕作放棄地を耕し、大根や落花生を栽培している。気高の会下では大堤の保全活動をしている。これらの事業に対し、県と共に助成している。

地域でやっていこうという思いがあれば相談いただきたい。

(地元)

耕作放棄地をグラウンドゴルフ場にしてはという思いもある。白兔にもあるが満員であることが多いため、あの辺りを借りて当地区にもグラウンドゴルフ場、あるいは多目的広場を作ってもらってもいいのではないか。

(市長)

提案として承りたいが、面積と段差を考えると難しいかもしれない。白兔のグラウンドゴルフ場はもともと不燃物処分場の跡地であり、環境問題も考えていただくような施設として多くの方に活用していただけるよう整備したものである。

(地元)

ある会社の会長から提案があった。その会長は会社の他に農業もやっており、販売するスペースに隣接して、作付する所もあれば地域の皆さんも活発に動き、案も出やすいのではという提案だった。また、作付と農作物の販売に加え、魚介類の販売も一緒にできればいいのではという話があったので紹介したい。

(市長)

市内でも生産加工販売を一貫して行う6次産業化を進めているところも出てきている。どういう作物が適しているかということもある。販売場等は土地利用の上では都市計画区域に入っていないので可能だと思う。地域で検討され、具体的に構想が固まれば相談していただきたい。

(市長あいさつ)

全市的に少子化、人口減少もあるが、地域の特性や持ち味、地域資源を生かしていけば、明るい未来が開けてくると私は思っている。お互いに知恵を出して、一緒に頑張っていきたい。まずは来年4月から江山学園が円滑にスタートできるよう頑張っていきたい。